

# 産学連携が生徒に与える影響と、産学連携を支える体制

—マイスター・ハイスクール事業のアンケート調査結果から—

株式会社内田洋行  
教育総合研究所

| 事業  | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度                       | 令和7年度 |
|---|-------|-------|-------|-----------------------------|-------|
| <b>マイスター・ハイスクール<br/>(次世代地域産業人材育成刷新事業)</b><br>産業界と専門高校等が一体となって、教育課程の刷新や企業人材の活用等を実施 | 12箇所  |       | 3箇所   | 2箇所                         |       |
| <b>マイスター・ハイスクール<br/>普及促進事業</b><br>地域における産業界と専門高校等の連携体制構築を通して、産業人材育成のための教育充実を図る    |       |       |       | 先進的取組型: 4箇所<br>連携体制強化型: 8箇所 |       |

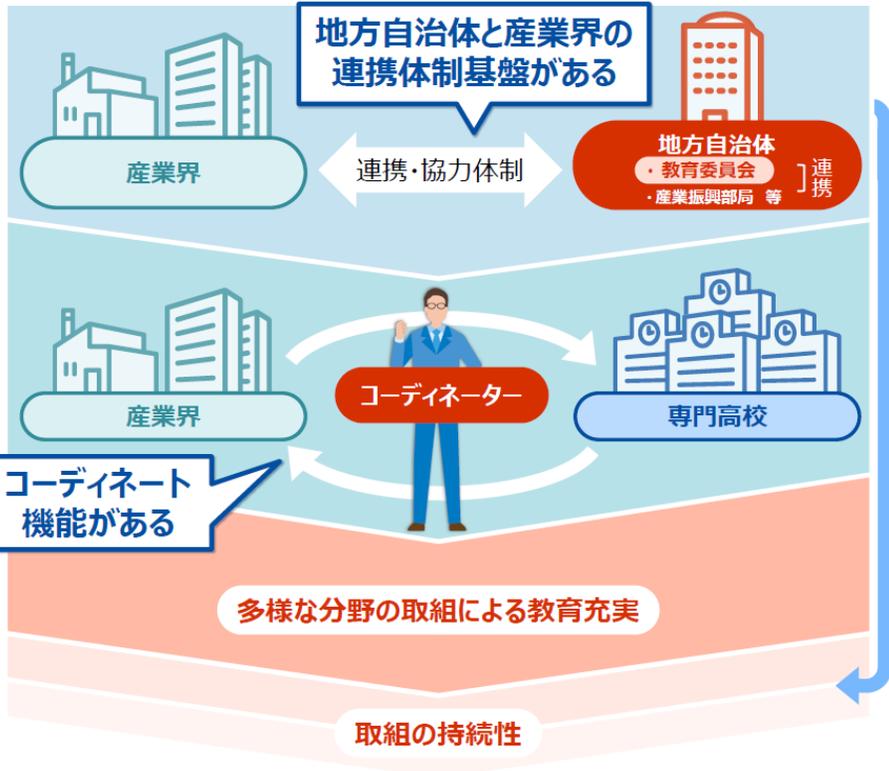
目指す連携体制

**良い点**

- 取組が持続的になる
- 様々な分野で連携した教育が可能になる
- コーディネーターによって、学校負担軽減

**懸念点**

- 地方自治体が産業界と体制を構築する必要
- コーディネーターの育成や活用に課題



- ・ 専門高校等における産業人材育成のため、産業界等と連携体制を構築し、産業界等と一体となった教育課程開発等を進める取組
- ・ 今年度の実施校・指定校は51校(その他、連携校もある)。
- ・ 取組開始年度は学校によって異なるため(5年前からの学校もあれば今年度からの学校もある、取り組みの深度には幅がある)。

【調査研究事業のミッション】

- 専門高校と産業界等との連携に関する**全国の実態調査**
- 連携体制構築に当たっての**実践的かつ実効性のあるノウハウ**の作成
- 専門高校と産業界等の連携体制によって生まれる**教育活動の変化及びその成果**についての整理・発信

●マイスター・ハイスクール (R5年度指定)



(主な取組)

- 産業界等と一体となったカリキュラム刷新・実践
- マイスター・ハイスクールCEOを企業等から採用し学校の管理職としてマネジメント
- 企業等の技術者等を教員として採用
- 企業等での授業・実習を多数実施、企業等の施設・設備の共同利用 等

①先進的取組型 (R6年度～)



(主な取組)

- 域内全体での産業界等と専門高校の連携体制の確立
- 産業界等と連携した教育課程・体系的教育活動の域内普及
- 産学連携コーディネーターの持続可能な活用方策の検討
- 広域ネットワークの牽引 (他都道府県等への助言等) 等

助言

②連携体制強化型 (R6年度～)



(主な取組)

- 産業界等との連携体制の構築
- 企業等と連携した授業・実習
- 産学連携コーディネーターの配置・活用
- 広域ネットワークの知見の活用
- 取組を地域に発信 等

伴走支援

広域ネットワークの構築

情報提供

③取組の支援



課題に応じて相談



- 広域ネットワークのハブ的役割
- 産学連携コーディネーターの育成支援 等

【件数：継続1箇所】 【委託先：民間事業者】

④実態調査 (全国・指定地域)

【件数：継続1箇所】 【委託先：民間事業者】

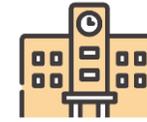
●専門学科デジタルコンテンツの充実

株式会社内田洋行



## 全国専門高校調査

-  **調査目的** 専門高校と産業界等の連携について、取組内容・体制等の実態を把握
-  **調査対象** 職業学科を設置している全日制の高等学校(大学科単位で回答)
-  **回答数** 368校(418校に依頼、回収率88%)
-  **実施期間** 2025/10/31～2025/12/10
-  **特徴** 全国の専門高校1,387校を母集団とし、大学科構成比率に基づく抽出と、必要サンプル数の確保により、全国の専門高校の実態把握が可能



## マイスター校調査

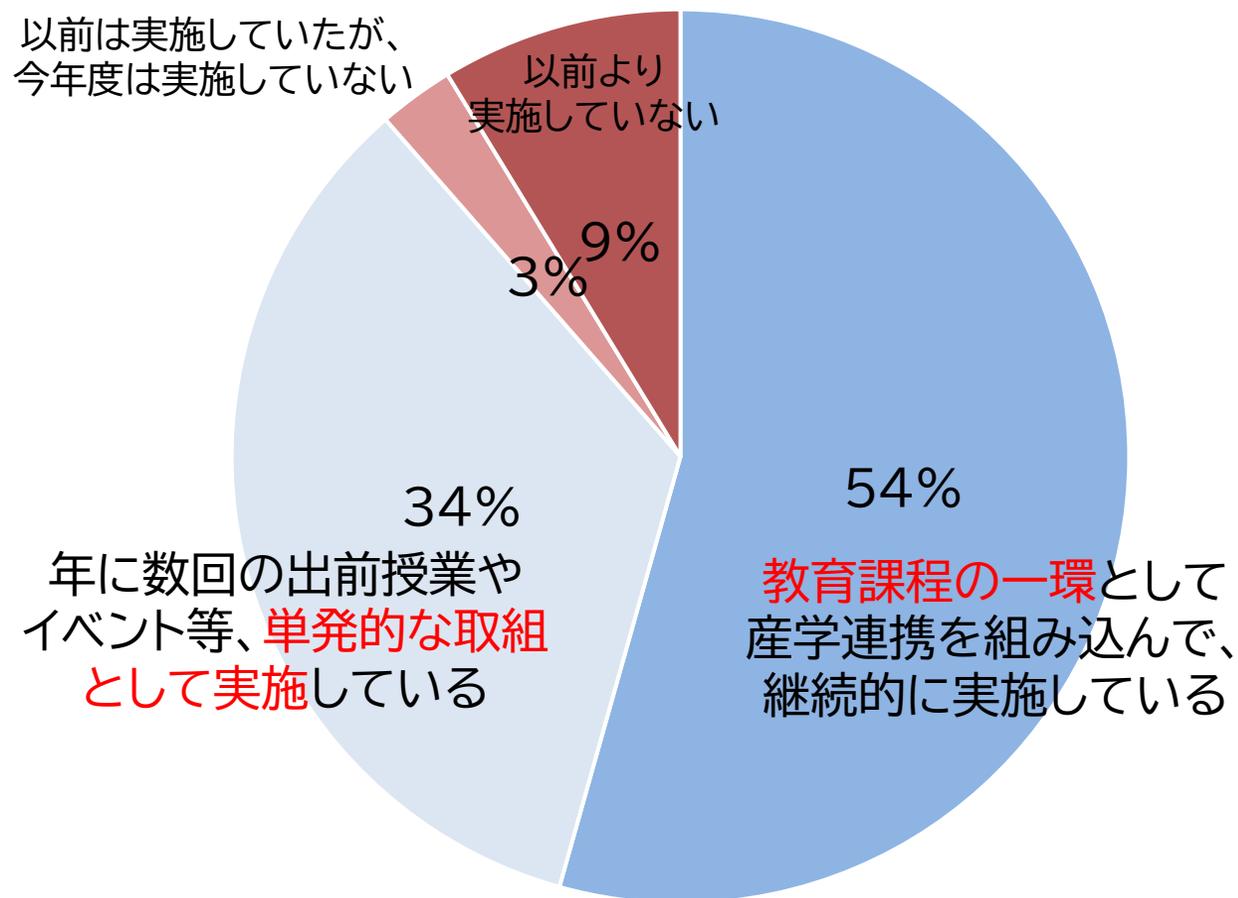
-  **調査目的** 産学連携および事業の成果を把握
-  **調査対象** マイスター・ハイスクール実施校・参画組織
-  **回答数** 学校:53校 生徒:6698人 教員:411人  
産業界:59団体・自治体:34団体  
(管理機関14・それ以外20)
-  **実施期間** 2025/11/04～2025/12/18
-  **特徴** 学校だけでなく、生徒・教員、連携先の産業界・自治体にも調査を行い、産学連携の詳細やその成果をより深く把握

昨年度の分析結果は文部科学省サイトに掲載されています。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/shinkou/shinko/mext\\_00015.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/shinko/mext_00015.html)



貴学科では今年度、産学連携の取組を実施していますか。(N=368)

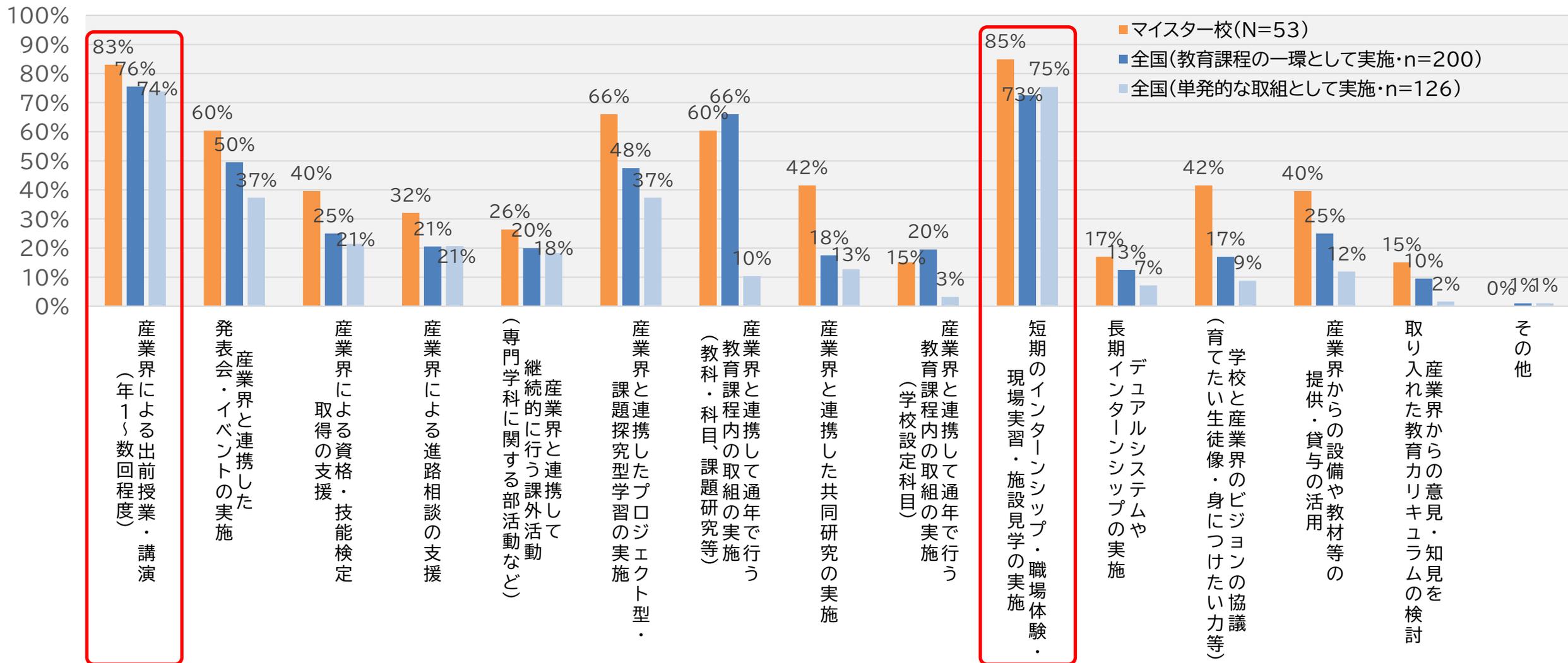


- 88%の専門高校で産学連携を実施と回答
- ただし、「教育課程の一環として実施」しているのは約半数の学校



# 今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容(複数回答)

## 全国&マイスター

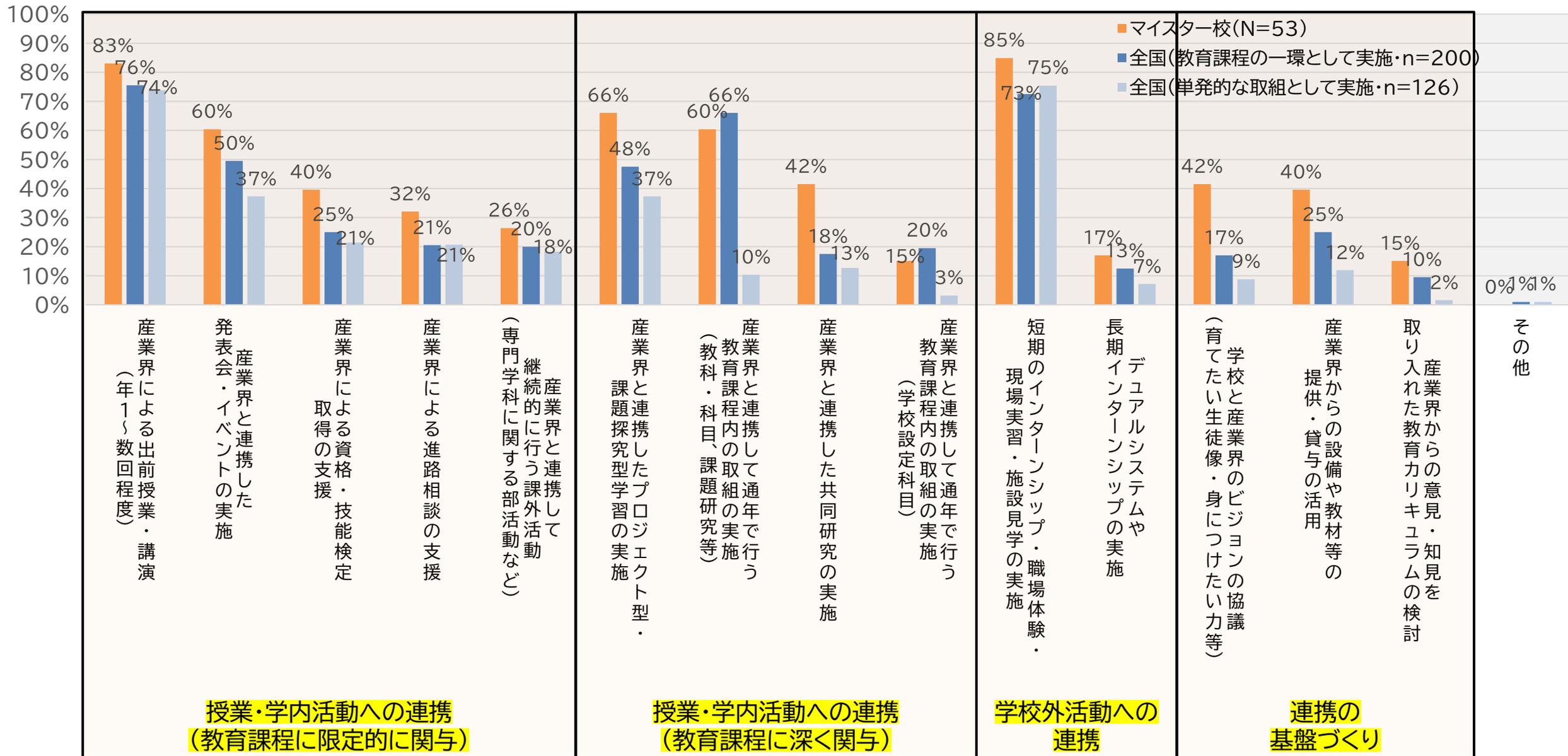


・ 全国平均・マイスター校ともに、「産業界による出前授業(年数回程度)」「短期インターンシップ等」の実施割合が高い



# 今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容(複数回答)

## 全国&マイスター



授業・学内活動への連携  
(教育課程に限定的に関与)

授業・学内活動への連携  
(教育課程に深く関与)

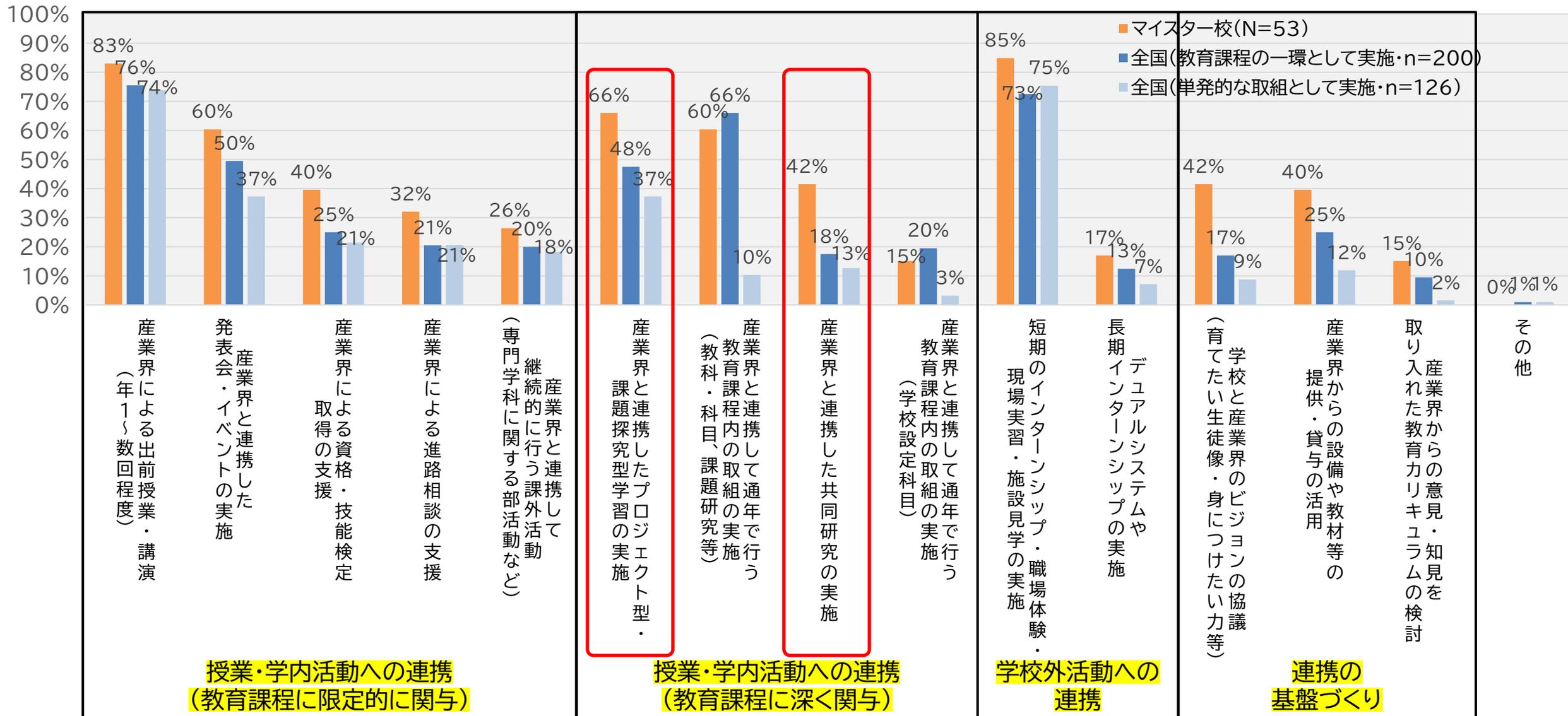
学校外活動への  
連携

連携の  
基盤づくり

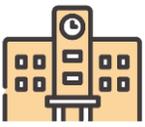


# 今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容(複数回答)

## 全国&マイスター

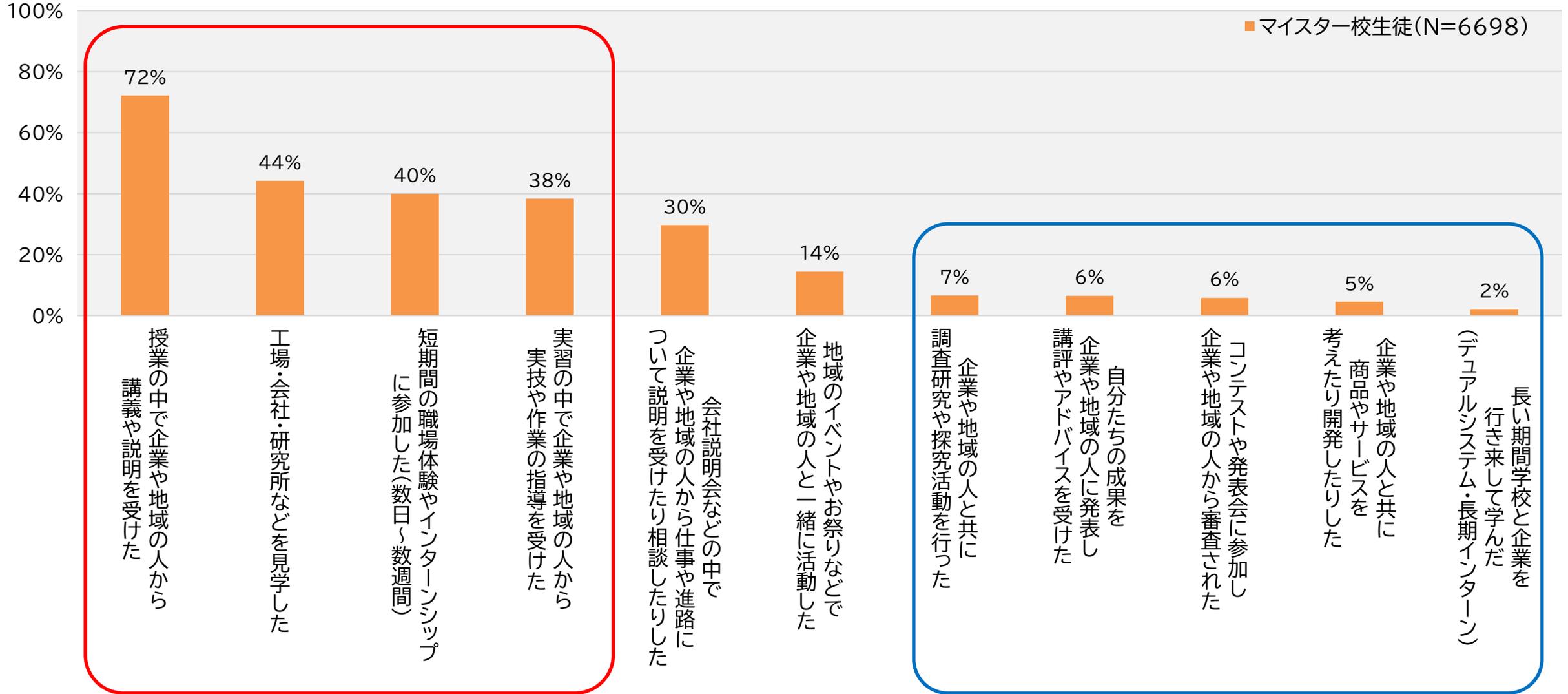


・ マイスター校は全国に比べ、「プロジェクト型」や「共同研究」など、教育課程に深く関与した取組の実施割合が高い

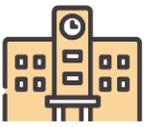


【生徒】今年度、あなたが経験したことについて教えてください。

マイスター調査

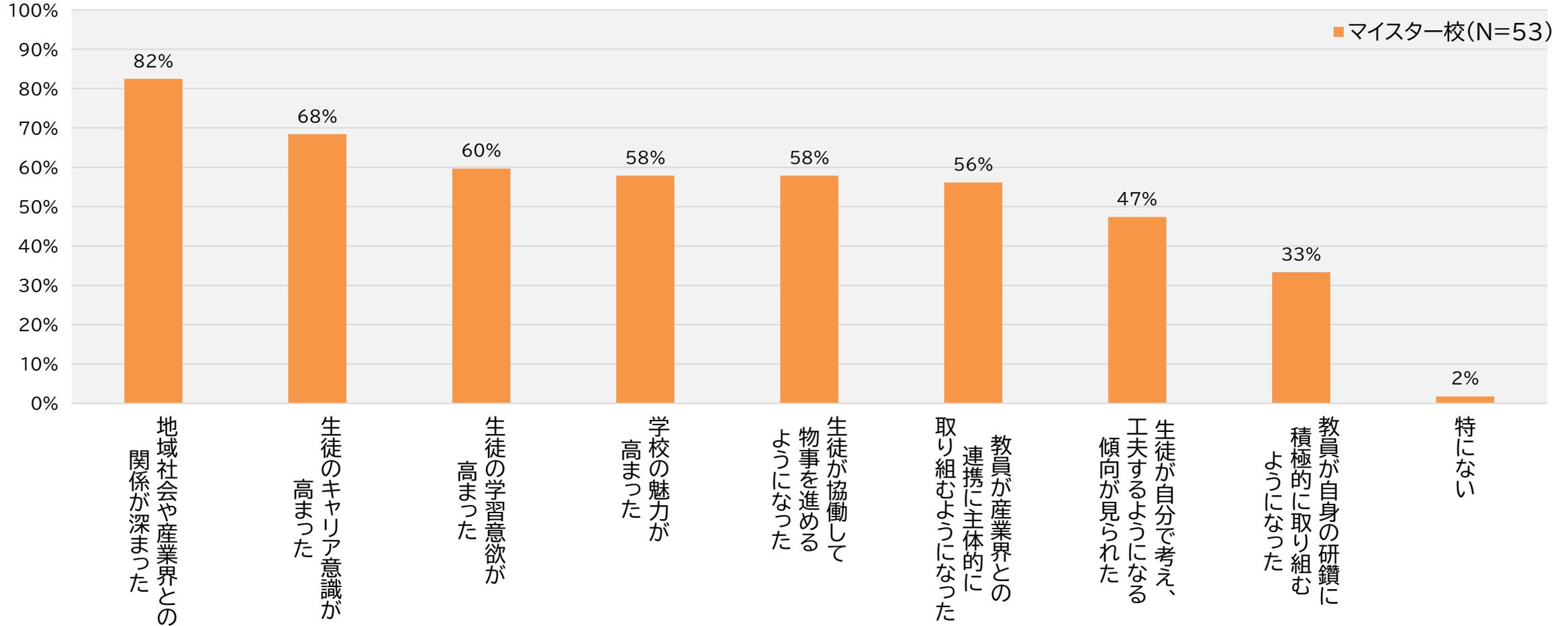


- 生徒アンケートからも、出前授業や施設見学、短期インターンシップなどの実施割合が比較的高いことが裏付けられた
- 生徒が産業界と継続的で深く関わる活動のほうが、実施割合は低い

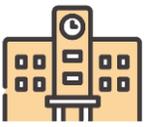


# 【学校】産学連携の取組を通じて、貴校として実感しているメリットを教えてください

## マイスター調査



- 産学連携の最大のメリットは、学校と地域社会・産業界との関係が深まったこと(82%)。他と比べて突出して高い
- 生徒面では、「キャリア意識」や「学習意欲」といった態度・動機づけの向上に加え、「協働的に学ぶ力」の育成を実感
- 組織面でも、「学校の魅力向上」「教員の主体的な取組」が一定程度挙げられている



## 職業・産業理解の深化

- 企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習は、**教科書では得られない「現場のリアル」を知る貴重な機会**だと感じました。
- **企業一つ一つにいろいろな課題**があり、それを解決、またはどうすれば良い方向に進むのかを**一生懸命考えていてすごかった**。
- 日本を支える**産業や物流などの根幹を知る**ことができ、とても良かった。普段見ることのできない側面を見れたのはとても良い経験となった。



## 将来・進路意識の形成

- 働いている大人の話聞くことで、**働くことのイメージ**がついて、魅力も感じられました。
- 自分が興味を持っていた業種以外にも学ぶことができ、**卒業後の進路選択を広げ**ることができました。
- 将来の話は実感が湧きにくく、他人事として捉えてしまいがちでしたが、企業の方々から「高校生のうちからやっておくべきこと」を教えてくださいましたことで、**進路に前向き**になりました。



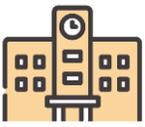
## 学ぶ意義の理解

- 実習で現場で使われている設備や技術に触れたことで、授業で学んだ知識が**どのように社会で生かされているか**を理解でき、学ぶ意欲も高まりました。
- **自分が学んでいることが本格的なもので、社会に出たときに必ず役に立つことをしているんだな**と実感しました。
- 授業だけでは、社会に出てからどうすべきか分かりにくかったが、地域の方々による授業を通して、**学んだことの応用の仕方、社会で何が大切か**を知ることができた。



## 学習意欲の変化

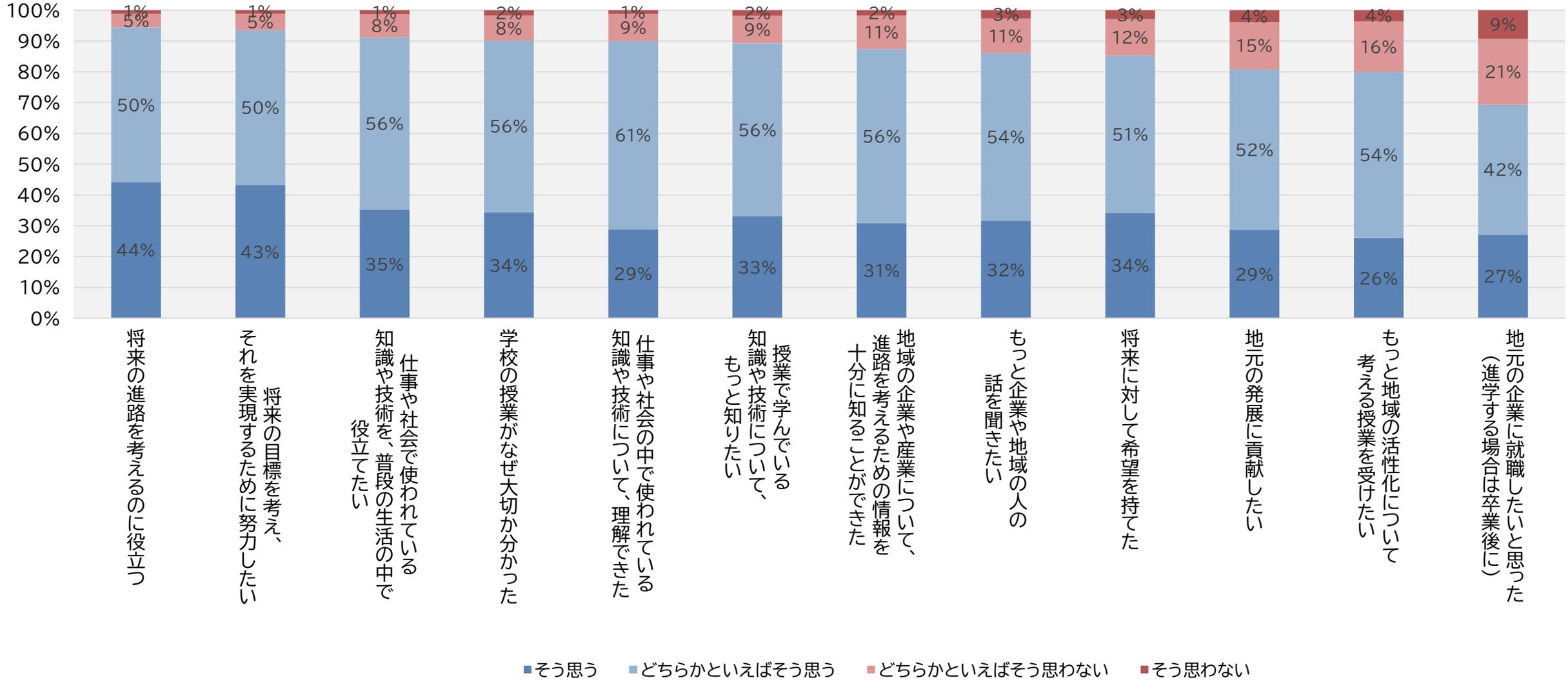
- 企業の良さや地域の活動の熱意が伝わってきました。地域ならではの特色や、意見、考えなどが興味深かったです。自分が地域に少しでも貢献できるように**もっと知識を蓄えたい**と思いました。
- やりがいや達成感は、**普段から努力している人ほど強く感じられるもの**だと思います。企業の方々も、「仕事をやり切ったあとに大きな達成感がある」と口をそろえて話していました。私も**これまで以上に粘り強く取り組んでみよう**と思いました。



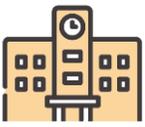
# 【生徒】産学連携の授業・実習に対する生徒の認識

## マイスター調査

マイスター校生徒(N=6698)



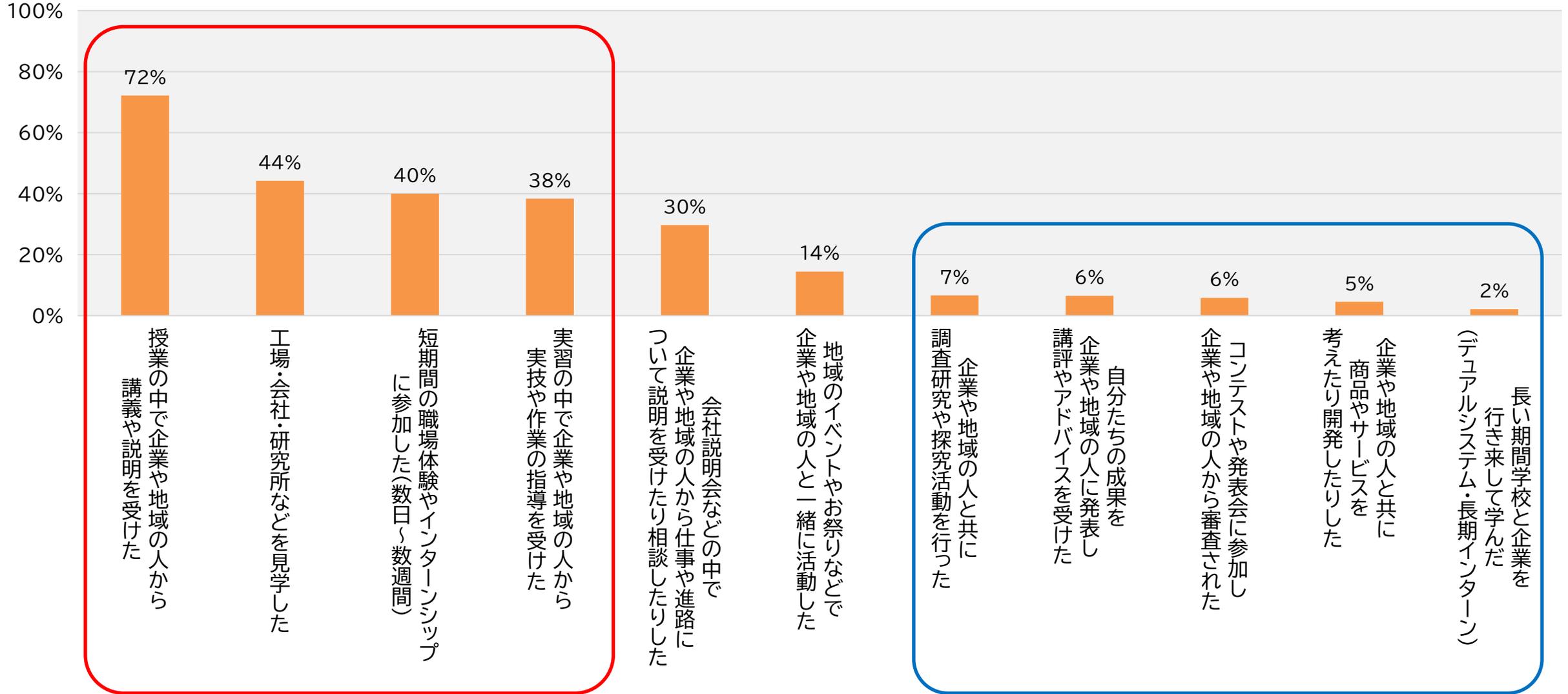
• ほぼ全ての項目で肯定的な回答が8割を超えており、生徒の認知としては、産学連携の取組の価値を認めている



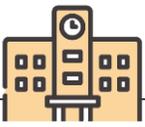
# 【生徒】今年度、あなたが経験したことについて教えてください。(再掲)

## マイスター調査

マイスター校生徒(N=6698)



生徒がどんな活動をしたかで、自己評価が変わるはず？



| 主観的成果尺度※1 (α=.92)                         |
|---|
| 授業で学んでいる知識や技術について、もっと知りたいと思った             |
| 仕事や社会の中で使われている知識や技術について、理解できた             |
| 仕事や社会で使われている知識や技術を、普段の生活の中で役立てたいと思った      |
| 仕事や社会の中で使われている知識や技術を学ぶことで、学校の授業がなぜ大切か分かった |
| 企業や地域の人から学ぶことは、将来の進路を考えるのに役立つと思った         |
| 地域の企業や産業について、進路を考えるための情報を十分に知ることができた      |
| 地元の企業に就職したいと思った(進学する場合は卒業後に)              |
| 地元の発展に貢献したいと思った                           |
| 将来の目標を考え、それを実現するために努力したいと思った              |
| 将来に対して希望を持てた                              |
| もっと地域の活性化について考える授業を受けたいと思った               |
| もっと企業や地域の人のお話を聞きたいと思った                    |

| 社会人基礎力尺度※1※2 (α=.95)           |  |
|--------------------------------|--|
| 前に踏み出す力                        | やるべきことに対して、積極的に取り組むことができた              |
|                                | 目標を達成するために、周りの人の力を借りながら取り組むことができた      |
|                                | 失敗を恐れず、行動に移すことができた                     |
| 考え抜く力                          | 目標を達成するために、解決すべき問題を見つけることができた          |
|                                | 何かの課題に取り組むとき、必要な手順について優先順位を決められた       |
|                                | 何かの課題に取り組むとき、解決策の選択肢をいくつか挙げて検討することができた |
| チームで働く力                        | 話し相手に対して、自分の意見を分かりやすく伝えることができた         |
|                                | 話し相手の意見や主張を正確に聞き取ることができた               |
|                                | 相手の立場や意見を尊重することができた                    |
|                                | グループで活動するとき、何をすればよいか、自分の役割を理解できた       |
|                                | 集団や社会生活の規則やルールを守ることができた                |
| 困難な問題に直面しても、諦めずに前向きに取り組むことができた |  |

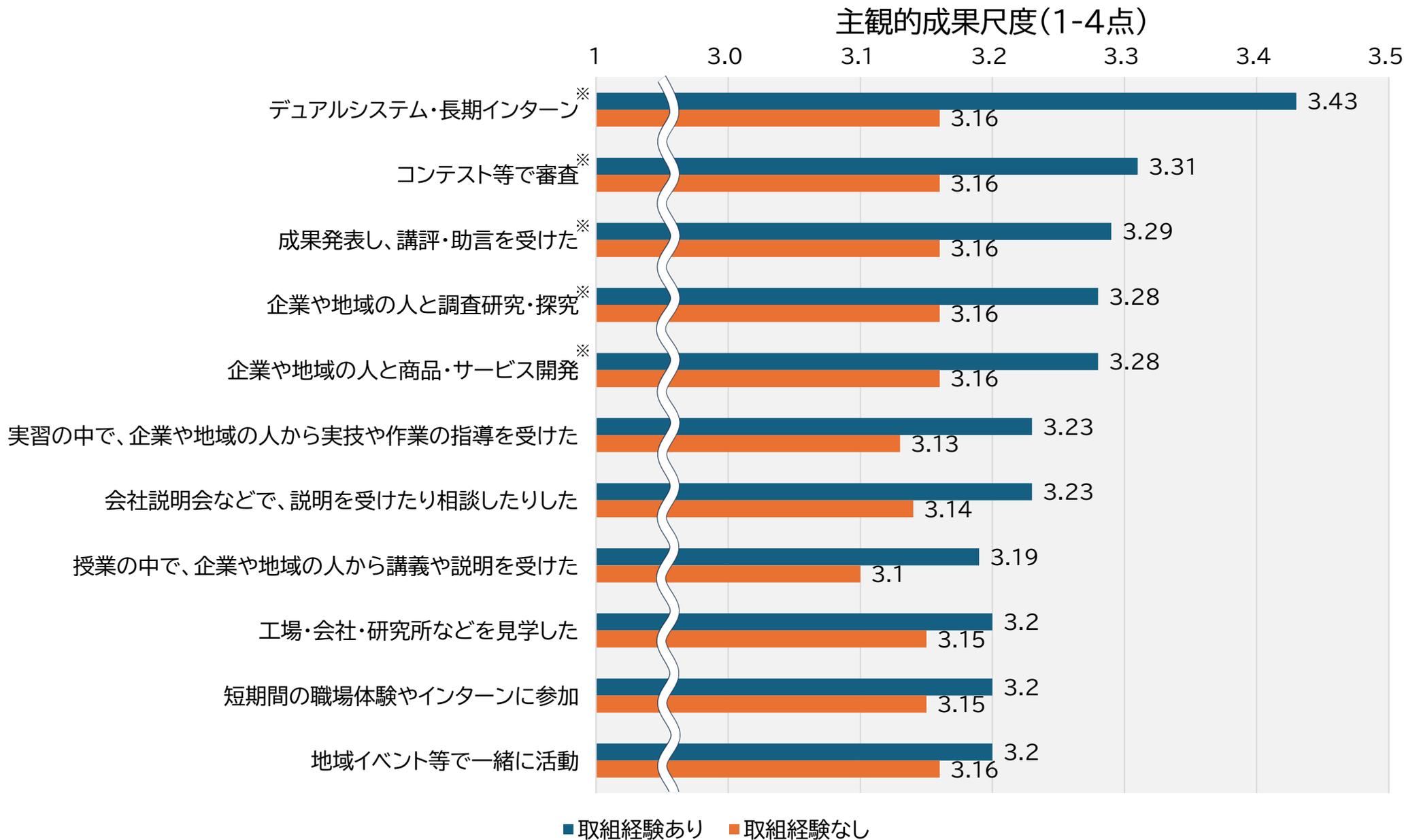
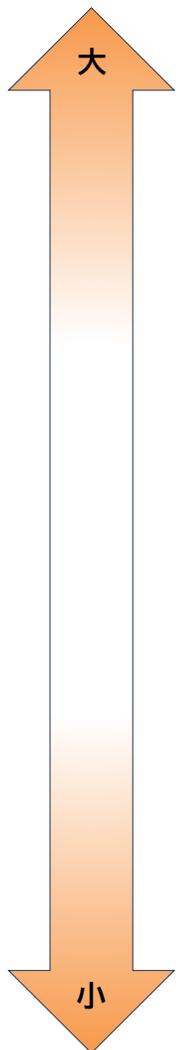
※1 各12項目(4件法)の回答得点の平均値を、産学連携の取組に関する主観的成果尺度および社会人基礎力尺度とした。

※2 「社会人基礎力」は、職場や地域社会の中で多くの人々と接触しながら仕事をしていくために必要な能力として2006年に経済産業省によって提唱された。3つの能力、12の能力要素で構成される。( <https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html> )

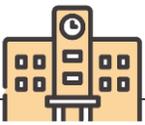


# 【マイスター生徒】取組経験の有無による「主観的成果尺度」の差(N=6698)

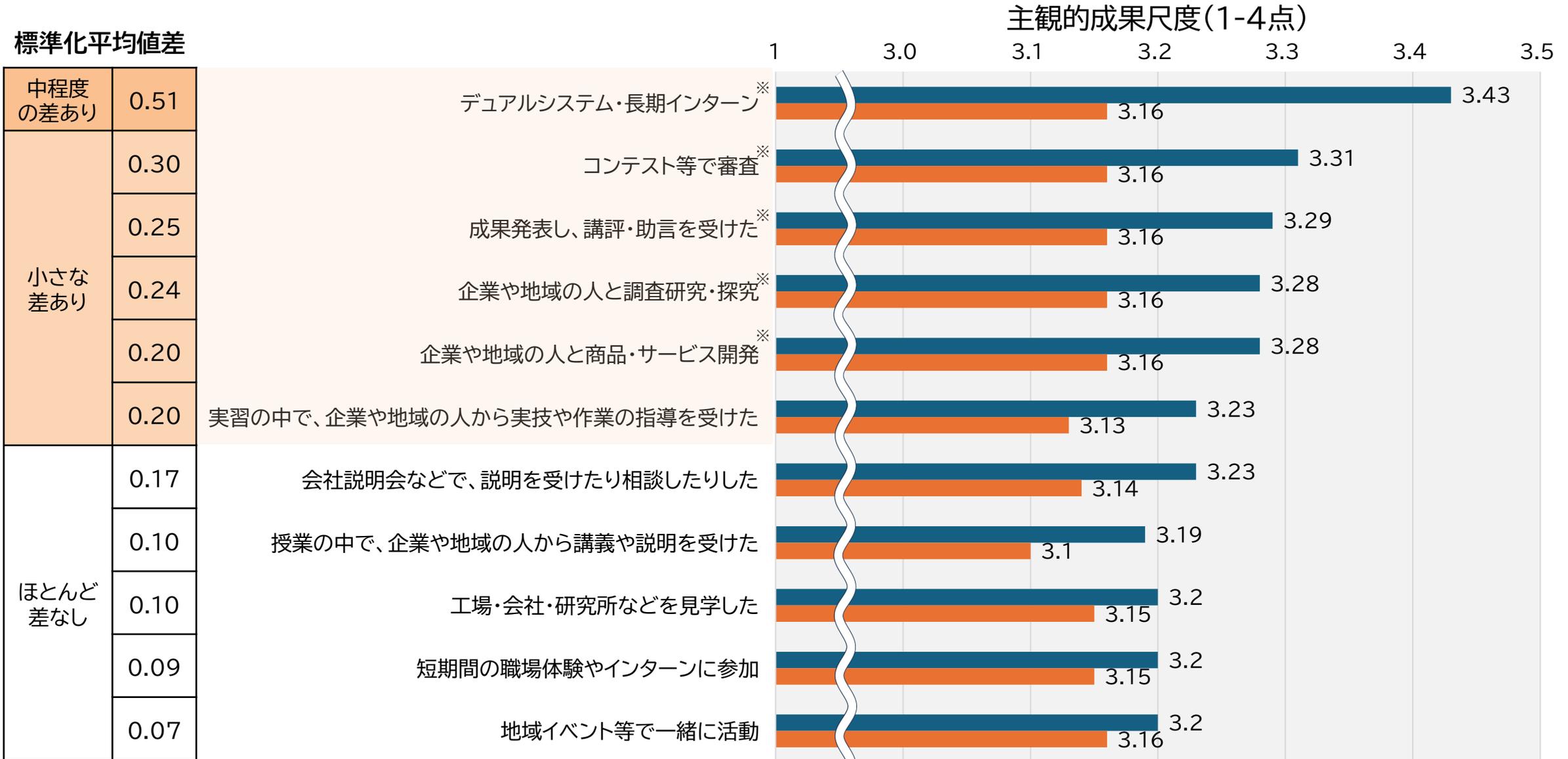
経験あり・なしの差



※ 経験ありの人数が少なく、生徒全体の7%未満

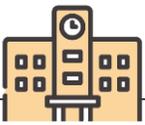


# 【マイスター生徒】取組経験の有無による「主観的成果尺度」の差(N=6698)

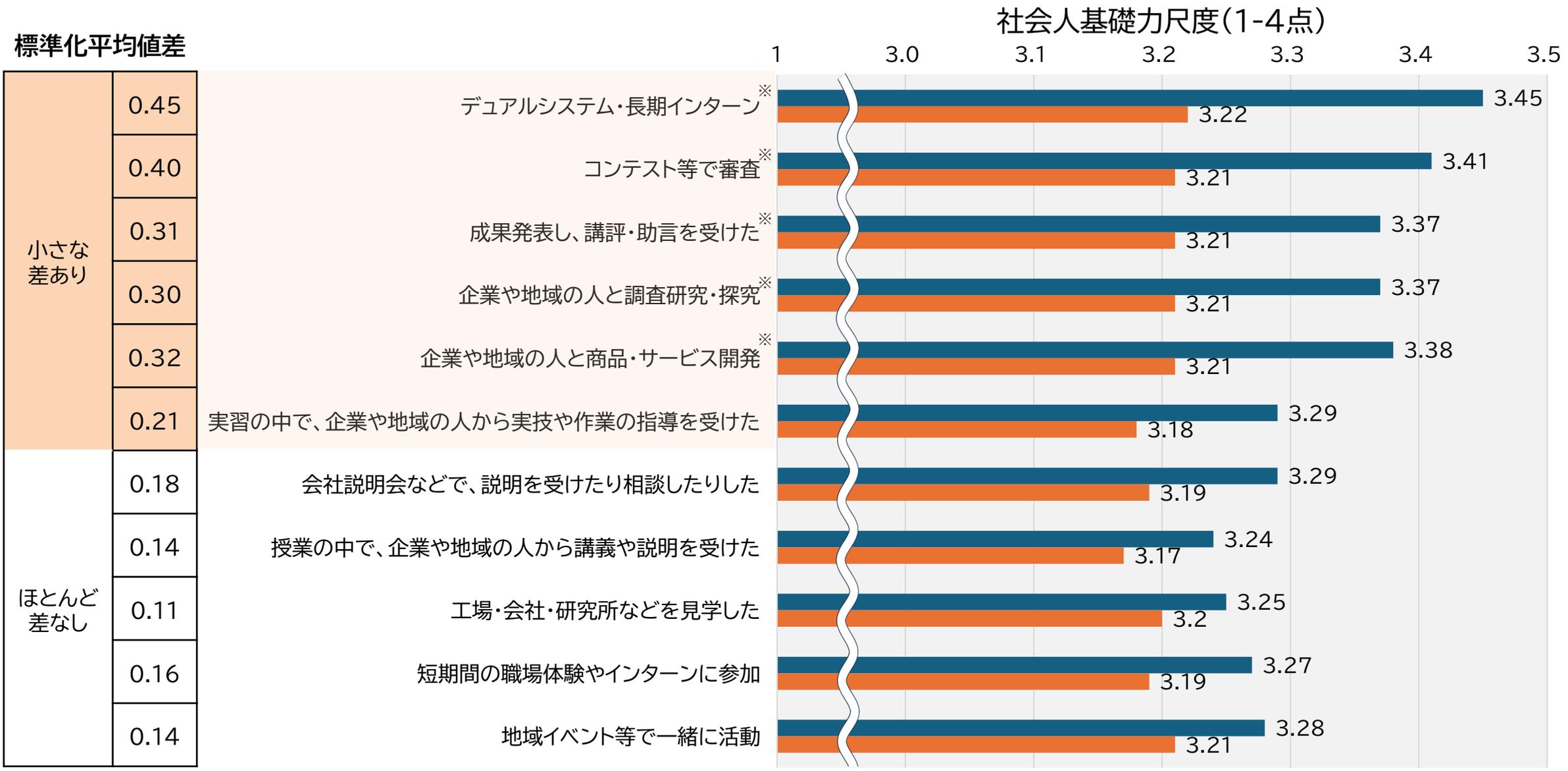


標準化平均値差の目安:  
 小さな差0.2以上 中程度の差0.5以上

※ 経験ありの人数が少なく、生徒全体の7%未満



# 【マイスター生徒】取組経験の有無による「社会人基礎力尺度」の差(N=6698)



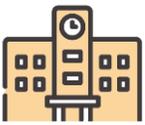
標準化平均値差の目安:  
 小さな差0.2以上 中程度の差0.5以上

※ 経験ありの人数が少なく、生徒全体の7%未満

- 産学連携の中でも、企業等の関与が継続的で深い取組を経験した生徒ほど、自己評価が高い傾向がみられた※。
- このことを踏まえると、生徒にとっての産学連携の成果(生徒の学び・成長)を高めるうえでは、単発の体験にとどめず、継続的かつ密接な連携に取り組むことが重要である可能性がある。

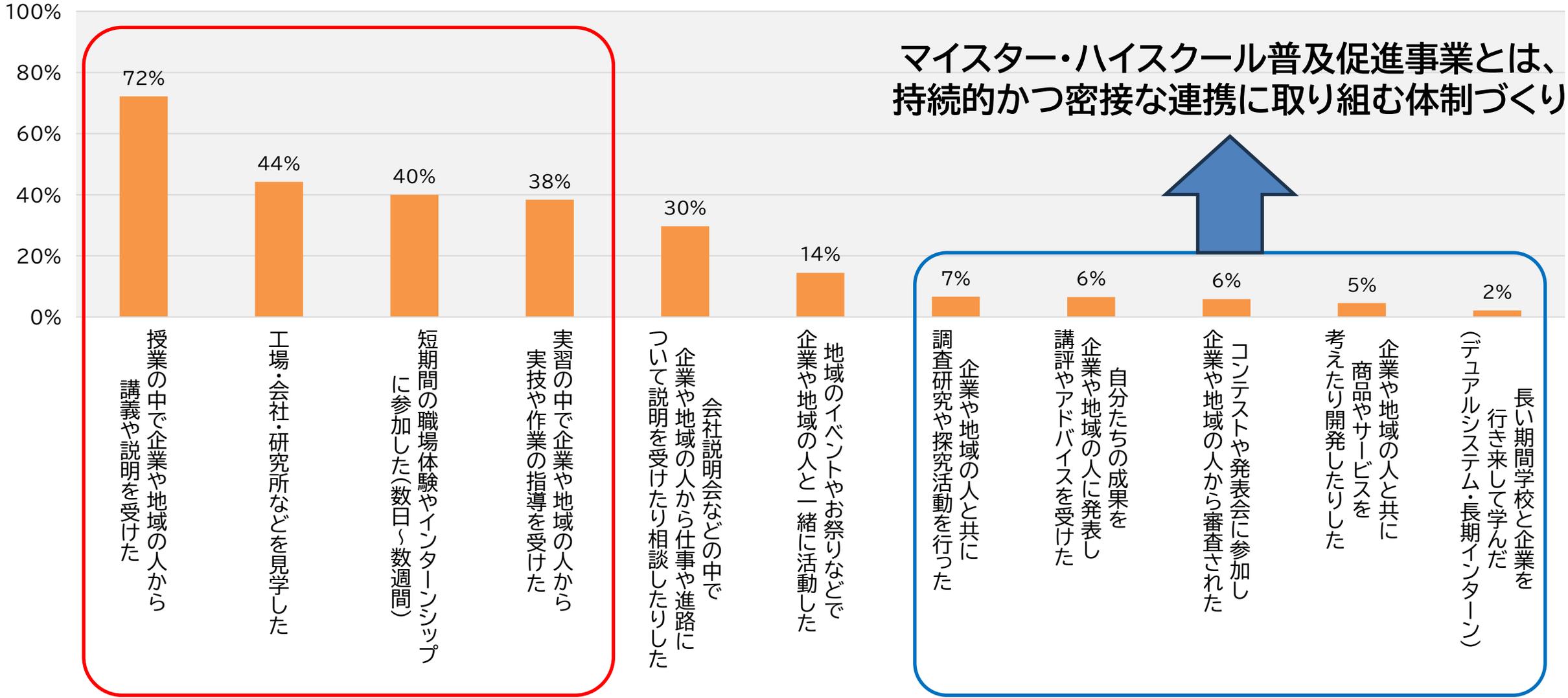


※因果関係は断定できない。



【生徒】今年度、あなたが経験したことについて教えてください。(再掲)

マイスター調査



マイスター・ハイスクール普及促進事業とは、持続的かつ密接な連携に取り組む体制づくり

単発・限定型の産学連携



継続・密接型の産学連携

# 地域産業の発展を担う人材の育成を学校と産業界が連携して 持続的に行うための仕組み

## 実現するための3つの柱

産学連携の**教育課程への位置付け**

●教育課程に位置付けて、継続的かつ密接な連携を組み立てること

産業界が**組織的に参画**できる体制の構築

●教育課程として毎年安定して実施するための、個人に依存しない体制

学校と産業界、**双方が求める人材像**の共有

●学校の一方向的な目的への協力でなく、産業界にとっての価値を明確に

単発・限定型と継続・密接型の産学連携は、  
目的も進め方も違う「別モデル」では？

## 単発・限定型の産学連携

学びへの関与



出前授業、見学・短期実習等、「点」での関与が中心

時間スケール



単発・短期・年度単位で終わりやすい

産学連携の  
担い手



担当者の人脈に頼りやすい

学校と産業界  
の関係性



「お願いする/協力する」関係になりやすい

学びの目的  
の共有



学びの目的が示されなくても、取組として成立しやすい。

## 継続・密接型の産学連携



教育課程に組み込み、年間を通して「面」的に関与



続くことを前提に、取組が維持・更新



組織同士で合意し、担当が変わっても継続される



対等な立場で役割と責任を分担する

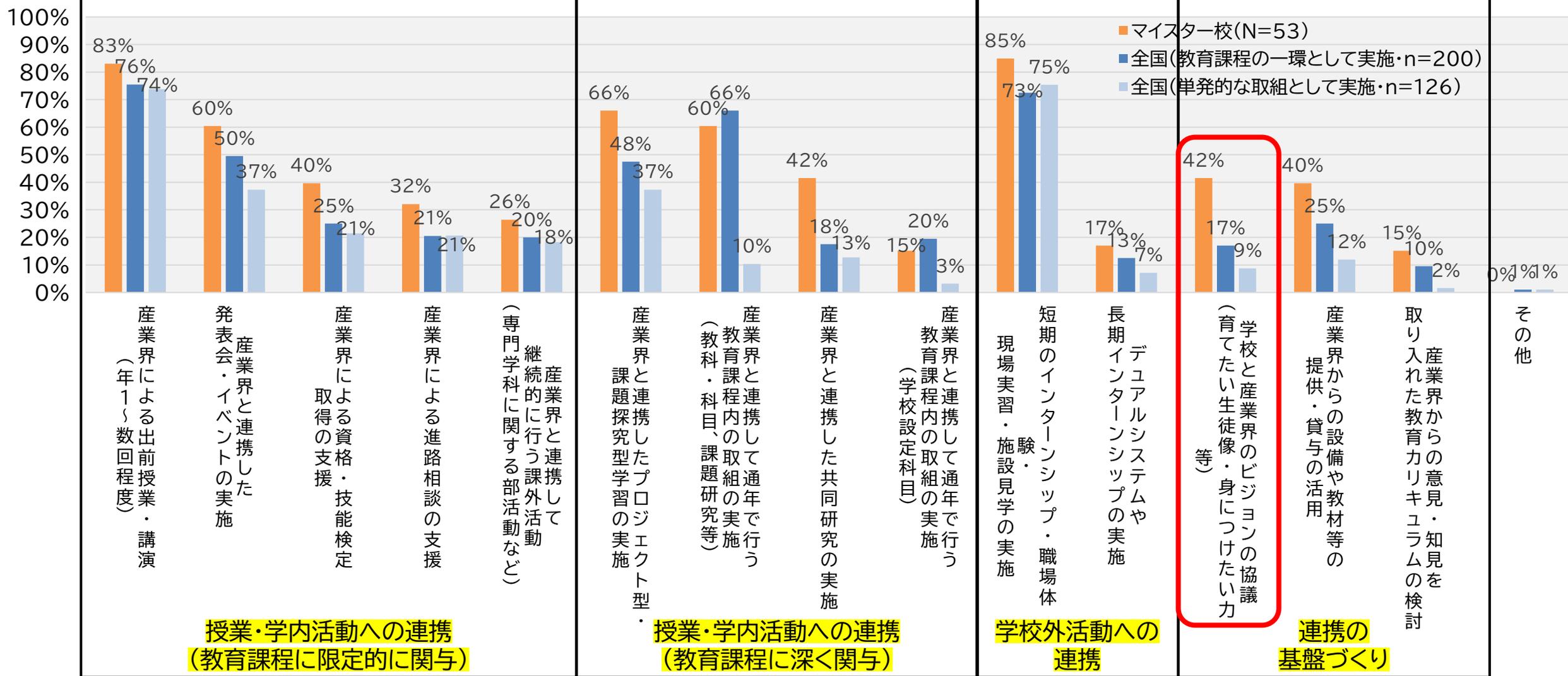


育成すべき人材像や学習目標を共有しなければ、連携自体が成り立たない。



# 今年度、産業界(企業や団体等)と協働して行った産学連携の取組の内容(複数回答) 再掲

## 全国&マイスター

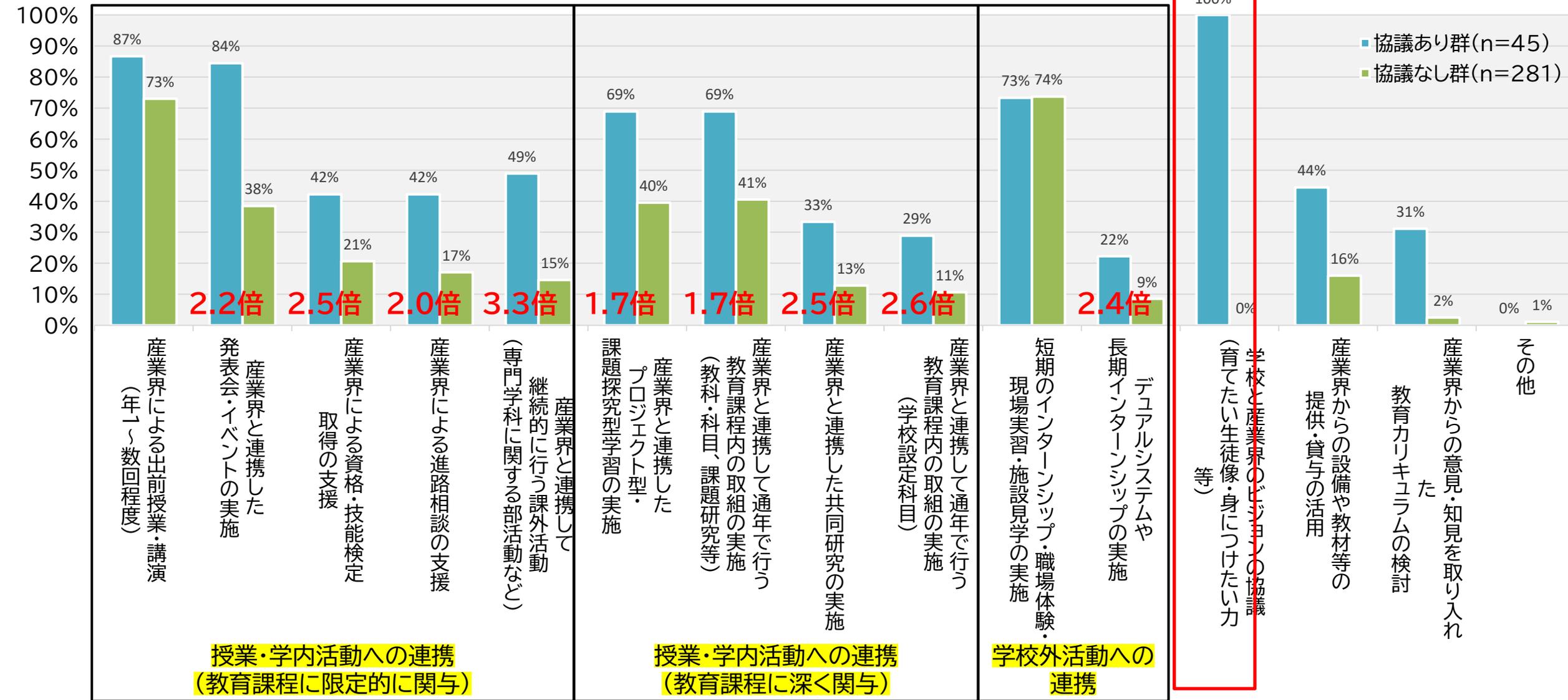


• マイスター校は全国平均に比べ、「学校と産業界のビジョンの協議」の割合が2.5倍

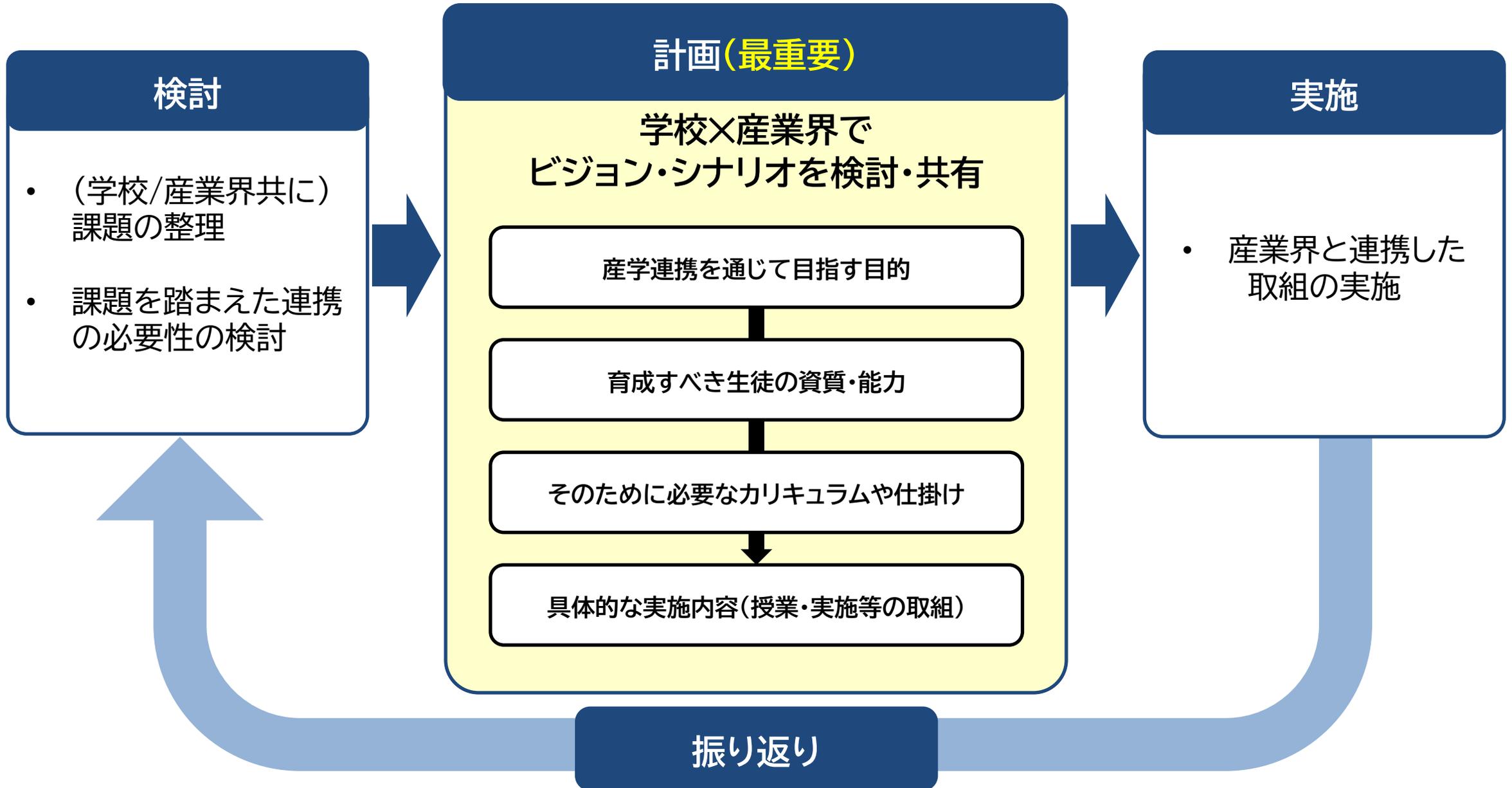


# 「学校と産業界のビジョンの協議」の実施有無による取組実施割合の違い

全国調査



「産業界とビジョンの協議」をしている学校は、産学連携の活動が全体的に活性化



●どうやったら、「学校と産業界でビジョンやシナリオを検討・共有」できるようになるのか？



### ①校内の推進体制

担当者の個人的なつながりに偏らず、学校が組織として産学連携の検討・計画・実施を回すための基盤

【体制整備のポイント】  
理解浸透/役割分担/負担軽減



### ②連携をつなぐ支援人材

学校と産業界・自治体の間に立ち、連絡・調整や合意形成を支えながら、取組を継続して進めるための役割

【体制整備のポイント】  
役割範囲/関わり方/配置形態



### ③学校・産業界・自治体による協働体制

学校・産業界・自治体が方向性と役割分担を共有し、地域の資源を生かして取組を継続・発展させるための枠組み

【体制整備のポイント】  
産業団体・金融機関の関与/  
自治体の支援/コンソーシアム(枠組み)化

### Step1 垂直的關係

- 主に、学校や企業・団体等のどちらか一方のニーズに基づいて活動が行われている段階。
- 企業等側の課題やニーズを十分に理解できていない。

### Step2 水平的關係

- 学校と企業・団体等が互いに理解を深めながら、協力して活動している段階。
- 協力できる分野や活動についてある程度の共通認識があるが、活動内容はどちらか一方のニーズが優先されやすい。

### Step3 協働的關係

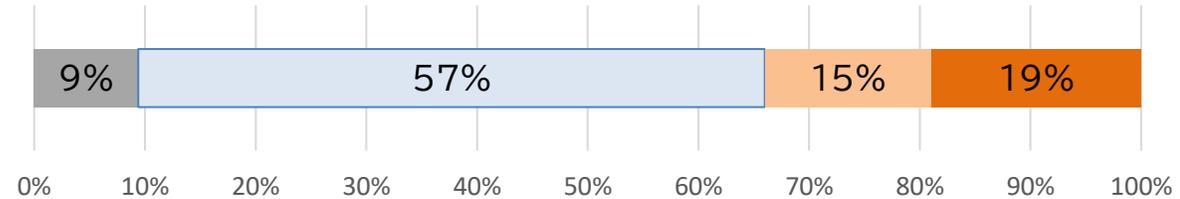
- 学校と企業・団体等がそれぞれの課題や目指す方向を共有し、共通の目的やビジョンを持って活動を行っている。
- 学校と企業等との関係は互恵的で、双方が取組から恩恵を受けている。

### Step4 持続的關係

- 学校と企業・団体等の間で、長期的で安定した協働關係が確立されている。
- 共通の目的やビジョンが明確に共有され、計画から実施、評価まで一貫したプロセスに基づいて行われている。
- 担当者が変わっても、信頼關係や取組が維持できる体制が整っている。



マイスター校(N=53)



■ ①垂直的關係 □ ②水平的關係 ■ ③協働的關係 ■ ④持続的關係

## ポイント

### コミュニケーション

- Step2へのステップアップは相互理解が鍵

### 産業界が連携の意義を腹落ちしているか

- Step3へのステップアップは、互いが産学連携の価値を理解し、「継続・協働型」に取り組む理由を持てるかが重要
- **意見交換や対話の機会を意図的に設計**することが重要



マイスター調査

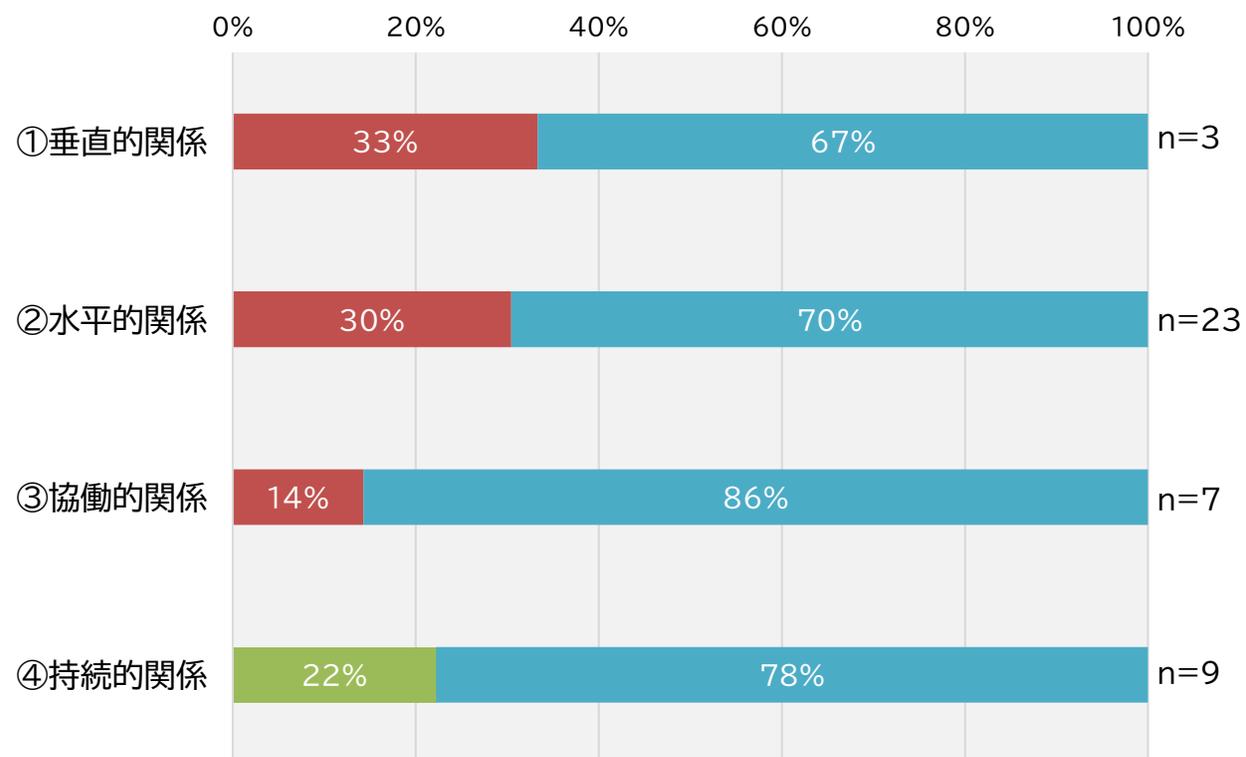
「関係の深まり」×「取組検討の主体」



- 学校が主体
- 企業や団体等が主体
- 自治体が主体
- 学校と企業・団体等が対等な立場で検討
- 学校や企業・団体等が参加する組織(コンソーシアム、協議会、委員会等)で検討

関係が深まるにつれ、「学校が主体」の割合が減少

産業界との関係性×産学連携開始時期



- 1-3年前から
  - 4-5年前から
  - 7年以上前から
- ※いつからか不明・その他を除外

関わってきた期間が長ければ、関係が深まるわけではない  
関係を深めるため、意見交換や対話の場を意図的に設計すべき

- 継続的で密接な取組を経験した生徒ほど、自己評価が高い傾向が見られた。  
効果を高める観点から、単発型にとどまらず、「継続・密接型」の連携を拡充することが有効である可能性がある。  
(※ただし因果は断定できない)
- 「継続・密接型」の連携を進めるには、計画段階の対話が重要となる。  
具体的には、学校と産業界が対話を通じてビジョンやシナリオを検討し、共有することが重要である。
- 学校と産業界の関係は自然に深まりにくいいため、対話の機会とプロセスを意図的に設計する必要がある。